

私立短期大学図書館協議会

会報

編集者
網本・菅原
発行者
もり・きよし
私立短期大学図書館協議会

Bulletin of Junior College Library Association

1982. 11 No. 11

創立5周年特集

1982 12 1

東海北陸地区協議会の創立を思う

林 勇 一

昭和52年3・4月頃だったかと思いますが、市邨短期大学の間宮女史より電話が入りました。用件は私立短期大学の図書館の相互の連絡、情報の交換ならびに一層の充実・発展を目指して職種別の団体（私立短期大学図書館協議会）の結成の機運が盛り上がってきました。設立発起人の一人として組織造りに参画してきましたが、学校が四年制大学の開学のための図書館造りに追われて外部の仕事は当分手が出せないのではなんとか設立準備委員を代って引き受けていただきたいとのことであつた。私の方とてやっと4年制の大学の図書館造りを終り、なおざりにしてあつた短大図書館の整備を本格的に始めた矢先であつたので、ご辞退を申し上げました。再参にわたり短大図書館界の発展のため何とかお手伝いをお願いできないかとの申し出がありました。いつまでもお断わりも出来ず、かと云って協議会の組織は施設単位で組織されていますので個人としては、仕事らしい仕事になりません。館の代表者である館長が動かなければ何事も出来ません。館長と相談して館長が引き受けるならば館務として仕事をしましょう。そこで館長が私立短大図書館界の発展のためなら引き受けるから仕事をしてくれ、こう云ういきさつから協議会に足を踏み入れることになりました。昭和52年9月大阪で全国図書館大会の短大大会が開かれる機に設立総会が開かれて私立短期大学図書館協議会が発足しました。それ以来地区理事校として協議会に参画することとなりました。地区理事として地区をどうすればよいのか僅か9校の少会員では何をすればよいのか

皆目解りません。他地区の動きを見て腰を上げようとしている間に52年度も過ぎてしまった。翌53年度は協議会の組織の強化と地区協議会の性格が打ち出され、地区協議会の結成をうながされる形となりました。図書館の団体には、県には県単位の図書館協会、大学短大の地区協議会、日本図書館協会、同短大協会、研修団体として私立短大協会の図書館担当者研修会などいくつかの団体があります。我々の地区協議会はどうなことをしたらよいか、会費だけを払う集りだけであつてはいけぬ規模の小さい会員の多い集りとして会費に見合う何らかを還元できる会の運営にしたいと考えて地区協議会の設立準備にとりかかり愛知県の加盟校を準備委員をお願いして53年6月15日に準備委員会を開きました。席上全員が発足を決議しましたので、発足会議に切り替えて規約の制定、役員の人選、事業計画など審議可決して会の誕生が出来ました。役員（幹事）に準備委員全員と、三岐地区、北陸地区各一名を選出お願いしました。事業としては実務研修を中心として行なう第一回を10月31日に開きました。参加校18校参加者32名翌54年度より情報の伝達と連絡を兼ねた会報の発行の運びとなり会としての形が整ってまいりましたが、会員数の少ないのが心配でしたが会員の皆様のご声援とご協力により会員も26校と増して加盟率では他地区とあまり遅れをとらないまでになり感謝いたしております。今後とも一層のご指導ご援助を賜わり会の発展を願っております。

(愛知淑徳短期大学附属図書館)

短図協の設立から参加できて

前川 和子

1977年の春、安部先生（当時東京女子短大図書）より短図協の発起人のメンバーとして参加してほしい、と呼びかけがありました。憧れの安部先生たちより、全国で初めての私立短大図書館ばかりの組織を創るための発起人と呼んで頂いたこと、これはとても大きな喜びでした。が、私には大役すぎるのではないかと、とても悩んだのですが、せっかくのご指定、何か先生方なりの思惑があたりだろうと思い、発起人に加えて頂きました。その年の5月27日、日本図書館協会で、私立短大図書館協議会設立発起人総会がありました。胸をドキドキさせながら総会の部屋に入りました。それまでは日本私立短大協会図書館担当者研修会や図書館専門雑誌などでお名前やお顔のみ存じ上げていただけで、親しくお話をしたことなどなかったのですが、部屋に入った時の心細さはどこへやら、設立をひかえた熱気が満ちた部屋の中に、先生方はこちらに招き入れてくださり、私もずっと溶けてまかせて頂いたように記憶しています。そして、9月29日、大阪において図書館大会が開催されました。建設保証ビルにおいて短大部会がもたれ、テーマは“短大図書館の現状と課題——短大図書館を使ってみれば——”でした。部会后、私立短大図書館部会総会が開かれ、その場で、短図協の創立が決定、総会がもたれました。いよいよ私立短大図書館のみの全国組織の成立です。その歴史的な時間に居あわせることができましたことは、大きな幸せでした。組織が出来、これから横の連携を拡げ強めていくこと、地区理事校として、そのお世話役の責

任の重さを痛感する反面、きっと短図協はその設立主旨を理解されて、全私立短大図書館に迎えられ大きく強くなるに違いないと思いました。そう信じられるからこそ、お世話人もさせて頂くことができたと思います。近畿地区は、第一回研修懇談会を翌年1978年3月24日、大谷女子短大図書館に安部先生を講師としてお招きし、開きました。参加者は25名。研修懇談会を年3回開き、うち1回は図書館見学をすることに決まりました。第2回は7月28日。講師に桃山学院大学の志保田務先生を招き、“NC-R新版について”。参加校29校、42名。第3回は図書館見学で、12月9日同志社大学と同志社女子大学図書館を見学しました。その後理事校は1979年度より（5回目より）帝塚山学院短大図書館に、1981年度より（10回目より）平安女学院短大図書館に移り、発展しつつあります。今年の10月16日には第14回研修懇談会が予定されています。会員校も1982年6月19日現在49校（1977年11月17日現在は27校）になりました。念願だった雑誌目録も帝塚山学院短大図書館の素晴らしい推進力で完成し、補遺版も平安女学院短大図書館を中心に出版されました。

全国唯一の私立短大図書館の組織である、私達の短図協を、私達は守り育てなければなりません。そしてそれと共に個々の図書館が益々充実し、図書館サービスの拡大と向上がはかれるよう、つながりを大切に、強めていきたいと、組織の中の一員として、今も心に強く思っています。（大谷女子短大図書館）

短図協に入会して

村上 義幸

入会して3年経過しました。岡山県では、早くから公私立短期大学図書館の協議会が結成され、毎日処理している図書整理事務などについて、問題点を取りあげ、研究協議を重ねたり、他県の優れた図書館の視察等を経て来ておりました。全国的な短期大学図書館の組織は出来ないものかと心待ちにしていたところ、結成されたことを知り、入会しました。

新しく会を創めるということは大変なことで、設立に尽力された方々の御苦労は、筆舌に尽きぬものがあつた

ことと察します。一度ルールが敷かれますと、後は何とか進んで行く。問題はそのルールが敷かれるまでの目に見えない陰の御苦労にあつたと思います。

入会してみましたものの、中国四国地区はその活動が未だ緒に着かず、全国大会も都合で失礼して居りました。本年は幸にも東京での大会に参加でき、今更のように入会していて良かったという思いに浸っています。

今年の会は大会行事の他に、コンピューターを中心にした研修会が持たれました。従来コンピューターと聞き

ますと、食わず嫌いと言いますか、難かしいという先入観、金がかかるとのあきらめにも似た感じに支配されて小規模図書館では縁のないものと決めてかかっています。せいぜい全国大学の情報ネットが完成した暁には、端末機を置いて検索に利用させてもらうのが関の山ぐらいの考えでいました。ところが会で話を聞き、実際に機械を操作させてもらって、今までの頭の中がまるで間違っていたことに気付きました。費用の点でも、操作の点でも、コンピューターは身近にあるもの、との感を深く

しました。各種の研修会に出席して来ましたが、こんなに有意義な会は、そう多くは無かった感じします。

この大会なり研修会の準備に直接携って来られた方々の御労苦もさることありますが5年前に全国組織が完成されて居たからこそ可能な研修会であったわけです。地方の小さい会ではとても考えも及びません。

発足日が尚浅いとは言いながら、着実に成果を挙げて来ているこの会、事務局の方々の御労苦に感謝しつつ、共に発展を祈りたいものです。

(美作女子大学短期大学部図書館長)

創立5周年を迎えて

村上 博子

私立短期大学図書館協議会設立の趣意書が届けられた時、私は待望していた組織が、やっとできることを心から喜びました。しかし私共の図書館が、それまでに交渉を持っていた私立短大関係の図書館は、「福岡県・佐賀県大学図書館協議会(国・公・私立)」に加盟している数館に過ぎなかったもので、果たしてどれ程の図書館が賛同、加盟するか一抹の不安を感じました。しかし設立1年後には、九州地区50校中、加盟17館となり、まずまずの出だいで安心いたしました。その後、毎年、研修会開催等で、加盟館館員の交流も目ざましく活発になり、加盟館も着実に増加してまいりました。

特に印象に残っていることは、昭和55年10月に鹿児島で開催された全国図書館大会の短大分科会において、九州地区協議会より3館が事例および研究発表をして、大

会を盛り上げてくださったことです。

また、本年度より、九州地区の活動を5地区に区分して行う試みが始まり、大きな障害であった交通の不便もカバーされ、地区活動もしやすくなることと思います。また、会長校も輪番制で各区から選出されることになりました。このように今まで以上に、全加盟館が自主的に参加し、活動する体制ができたことは、まことに喜ばしいことと思います。

設立後5年間に亘る会長校としての役割を私の非力と、当館の人事移動等の事情で十分に果たすことができなかつたことを申し訳なく思っておりますが、皆さまの御協力によりこのような新しい道が開けてきたことを心から感謝いたします。前(九州地区理事)

小さいことは良いことだ

瀬古 輝子

5周年おめでとうございます。大阪での図書館大会で、創立総会が持たれた時、館界の動きに鈍感だった私は、この新しく発足した協議会の意図もよくわからず、ただ、他の館種は皆、独立した組織を持っているのに、短大だけがそれを持たなかったの、こうして当然のなりゆきで組織が出来たのだ……位に思っていた。ところが、その活動は、堰をきったように始められ、研究紀要や会報の創刊、総覧発行、また各地区の雑誌目録編集等、相次ぎ、ワクワクするような想いであった。お世話役の方々の努力はなみなみではなかつただろうと思う。

そして、どういふいきさつだったのか、創立後3年目に、近畿地区の理事校をおおせつかってしまった。幹事

が全部助けてやるからなどと、上手にくどかれ、私も「うちみたいな、すべてにめぐまれない図書館が理事校をやるというのも意味があるかもしれない」などと、のんきに考えて引き受けてしまった。もともと、人様のお役に立てるような余裕はあるはずもないダメ図書館なのだけれど、本部役員の方たちの滅私奉公の様を見ていると何かやらなくては申しわけないという気持ちになり、かねてから「欲しいなあ」と思い続けてきた雑誌目録を作ることを思い立った。近畿地区の総会で提案すると、幸にして賛同を得ることが出来、加盟館の力の結晶として完成することが出来た。1人や2人で運営している図書館にとっては、自館の所蔵カードを出すこと自体大変で

ある。にもかかわらず協力していただけたのは、小規模故の、ないないづくしの堂々めぐりを、どこかで断ち切りたいと皆が願っているからだろう。そして、自館の目先の仕事のみをかたづけただけではどうしようもないことを、思い知らされてきたからだろう。意外と、小規模な図書館というものは、やる気にさえなれば、小まわりがきき、思いきったことが出来るように思う。この雑誌目録の件では、事務局としてもやはり、相当の労力を要した。もし最初に、「出来るかどうか検討」していたならば、結局、「無理だ」という結論にしかならなかったにちがいない。「必要だ」から即座に、「ではなんとかやってみよう」と全館員が一致して行動に移れるの

は、やはり「小さい図書館」だからこそ、ではないだろうか。今まで「小さい図書館」ということで、随分と絶望感を持ってきた。しかし、この際、居直って、小さいことを逆に生かしてゆかねば、と思う。相互利用の簡便化などは特に、小まわりがきく短大図書館界こそ、恵まれた条件と言えよう。コピーの申し込みや、支払いの手数を最少限にし、短大図書館であれば公共図書館同様、遠慮気がねなく利用出来る、そんなことなら、すぐ明日にでも、実現しそうな気がしてくる。小さいことは良いことだ。小さいことを大いに生かして、館界をアッとかわせるようなことをやってみたいものだ。

(帝塚山学院短期大学図書館)

歌声よ、おこれ

事務局幹事：渡辺 敏一

いま、一幕の夢のように高度経済成長期がすぎさり、世の中はおしなべて、ゼロからマイナスシーリングの忍耐期へ追いたてられようとしています。大学一般の財政に多少のゆとりがあった高度成長期には、予算や人員等の図書館基盤の充実に、私たちは幾模かの淡い期待を抱くことができました。しかしそれすらも、いまでは見果てぬ夢と思い定めざるをえないようです。

このような時代認識の危機感のためもあるでしょう。また、コンピュータの進歩が推しすすめる図書館活動の大きな変革のためもあるでしょう。いま、図書館界の津々浦々で、図書館の近代化や合理化、図書館協力体制についての論議が、これまでにない厚みと拡がりをもって声高に唱えられています。さまざまな研究(修)会をはじめ、図書館関係出版物も、最近はこのようなテーマで単色に塗りあげられている観さえ呈しています。しかし奇妙なことに、そういう一面の活況にもかかわらず、短大図書館界をながめやると、そのたかまりが「若々しいよろこびに満ちた潮鳴りとして、私たちの実感の上に湧きたち、押しよせてこないようなところがある」のは、なぜでしょうか。

たしかに、このような論議は、明日の図書館への希望を抱かせながら、私たちの心に快く響きます。しかし、短大図書館一般がおかれている肌寒い現実、図書館にたいする私たちの理想が高ければ高いほど、情熱が熱ければ熱いほど、私たちの前には大きく深い谷が口をあげていることを思い知らせます。私たちは、この理想と

現実との間に橋を架けることの難しさを、これまでの経験から無意識のうちに察知してしまいます。そしてそれが、理想に立ち向う私たちの心と足を、萎えさせます。このような私たちが、理想に向って爪先を揃え、力強い歩みをつづけるためには、何よりも人々が手を取りあい、励ましあい、たかめあうことが大切なことは申すまでもないことでしょう。理想に向って歩む私たちの力強い足音こそ、明日の図書館に希望をもたらす歌声にはかなりません。この歌声を響かせる舞台として創りだされたのが私立短大図書館協議会であったと、私は受けとめています。

この協議会組織ができて5年余。私自身のことをいえば、諸般の事情もあって、力不足なわが身を顧みず、創設以来、事務局を預かってきましたが、この間実にいろいろなことがありました。多少の苦勞もあれば喜びもありました。しかしそれよりも何よりも、この間、会長をはじめとする役員の方々のまさに犠牲的な努力を眼の当りにするにつけ、そこに歌声のわきおこることを希う切なる祈りを感じとってこれたことは、私にとって何ものにもかえがたい尊い経験でした。そのためも多分にあるのでしょうか。短大図書館の世界に、歌声のひびく日を希う気持ちが、時とともに強まってくるのを、自分のうちに感じはじめているこの頃です。

(東京女子大学短期大学部図書館)

注) 標題と「」内の文章は、宮本百合子の「歌声よ、おこれ」より引用。

『私立短期大学図書館総覧』特別会計…………… 3	<短大図書館めぐり>第8回 — 福岡女子短期 大学図書館 — ㊦ …… (手島美智子) …… 10
<会員校の声>第5回…………… (高島涼子) …… 4	『短期大学図書館研究』第2号目次一覧…………… 11
『総覧』の分析編9月刊行…………… (杉山) …… 5	<事務連絡>…………… 11
『関東甲信越地区私立短期大学雑誌総合目録』 編集経過報告…………… 5	<図書館関係行事>…………… 11
私立短期大学図書館協議会役員…………… 5	私立短期大学図書館協議会新加盟館…………… 12
<地区協議会活動報告>…………… 6～8	
『短期大学図書館研究』の案内…………… 9	
<事務局報告>…………… 9～10	
<事務局通信>…………… 10	
No. 7 (1980. 12)	
短大図書館 — 80年代の課題 — ㊦ …… …………… (菅原春雄) …… 1～2	No. 9 (1981. 12)
資料交換コーナー…………… 2～3	短大図書館の電算化によせて… (渡辺敏一) …… 1～2
<短大図書館めぐり>第6回 — 鹿児島短期大 学附属図書館 — ㊦ …… 3	雑誌総合目録の効用についての断想 — 分担保存 存の第一歩を! — …… (瀬古輝子) …… 2～3
<事務局報告>…………… 4	<会員校の声>第6回…………… (天野信定) …… 3
<短大図書館めぐり>第7回 — 上田女子短期 大学附属図書館 — ㊦ …… (長張和子) …… 4	<短大図書館めぐり>第9回 — 松蔭女子学院 大学・松蔭女子学院短期大学図書館 — …… 4
<地区協議会活動報告>…………… 5～7	<地区協議会活動報告>…………… 4～6
私立短期大学図書館協議会出版物案内…………… 7	<事務局報告>…………… 6～7
私立短期大学図書館協議会新加盟館…………… 8	短信…………… 7
	私立短期大学図書館協議会新加盟館…………… 7
	私立短期大学図書館協議会出版物案内…………… 8
No. 8 (1981. 7)	
これからの短大図書館のあり方を考える…………… …………… (安部登巳) …… 1～2	No. 10 (1982. 7)
昭和56年度総・大会 [56. 5. 29] 記録…………… 2～4	創立5周年を迎えて…………… (私立短 期大学図書館協議会会長: もり・きよし) …… 1
昭和55年度決算…………… 4	昭和57年度私立短大協総会 [57. 5. 19] 記録…………… 2
昭和56年度予算…………… 4	昭和56年度一般会計<決算書>…………… 2
昭和55年度出版事業特別会計決算…………… 4～5	昭和57年度一般会計<予算書>…………… 2
昭和56年度出版事業特別会計予算…………… 5	出版事業特別会計昭和56年度<決算書>…………… 3
<地区協議会活動報告>…………… 5～8	出版事業特別会計昭和57年度<予算書>…………… 3
<事務局報告>…………… 8～9	第1回短期大学図書館全国研修会 [57. 5. 19] — 全国から150名参加 — ㊦ …… 3～4
私立短期大学図書館協議会出版案内…………… 9	<地区協議会活動報告>…………… 4～7
昭和56・57年度私立短大協役員紹介…………… 10	昭和56年度私立短期大学図書館関係の動き…………… 7
	<事務局報告>…………… 8～9
	私立短期大学図書館協議会新加盟館紹介…………… 9
	出版物案内…………… 10

編集後記

創立以来の5年間の、諸氏から寄せられた苦労話、想
い出等を特集しました。

人、資料、金が少ないと鳴きごとばかり言っている短
大図書館の集団が、よくここまで成長し、活動したもの

だと強く感じます。

今後とも、皆様の力によって活動をより盛んにし、会
報に載せきれないくらいの記事を寄せていただき、会報
編集者のうちの一人に活を入れてやって下さい。(A)

発行所 私立短期大学図書館協議会 〒 181 東京都三鷹市牟礼4-3-1
東京女子大学短期大学図書館内 Tel : 0422-45-4145